

目 的

県内のアユ漁の状況を把握するために、解禁日の釣り人数と由来別の釣獲尾数を調査した。

材料および方法

調査場所 大河川 4 河川，中小河川 3 河川で調査を実施した。

大河川は，思川下流域（下都賀漁協管内），那珂川（那珂川漁業協同組合連合会管内のうち 6 月 1 日解禁の漁場），鬼怒川（鬼怒川漁協管内のうち 6 月 3 日解禁の漁場），渡良瀬川（渡良瀬漁協管内），中小河川は黒川（黒川漁協管内），大芦川（西大芦漁協管内），思川上流域（粕尾漁協管内）である（図 1）。



図 1 調査した 6 漁協及び 1 連合会

調査方法 平成 29 年のアユ漁解禁日にクリール・センサスを実施した。天然遡上アユと放流アユそれぞれの釣獲尾数を推定するために、側線上方横列鱗数と下顎側線孔数を指標とした釣獲魚の由来判別を実施した。方法の詳細については、既報¹⁾を参照されたい。

結果および考察

解禁日の釣り人数は 7 河川の合計が 3,378 人で，前年比 86%に減少した（表 1）。天然遡上アユの釣獲是那珂川と思川で確認され，2 河川の合計が 6,164 尾と前年比 198%に増加した（表 2）。一方で放流アユの釣獲は 45,054 尾で前年比 57%と大きく減少した（表 3）。特に大河川での減少が顕著で，那珂川は前年比 8%にまで減少した。放流尾数には大きな変化はなかったので，解禁までの生残率が低かったか，冷水病の発生や解禁日の気象条件，種苗性などによってアユがいても釣れにくい状況にあったものと考えられる。

表 1 アユ漁解禁日の釣り人数
（括弧内はドブ・毛ばり釣り）

河川	調査年		増減
	2016	2017	
大河川			
思川（下都賀）	209(23)	221(4)	106%
那珂川	1,209(36)	893(35)	74%
鬼怒川	934(44)	685(59)	73%
渡良瀬川	302(2)	253(3)	84%
中小河川			
黒川	352(2)	422(2)	120%
大芦川	437	309	71%
思川（粕尾）	506	595	118%
計	3,949(107)	3,378(103)	86%

表 2 天然遡上アユの釣獲尾数

河川	調査年		増減
	2016	2017	
大河川			
思川（下都賀）	92	40	43%
那珂川	3,018	6,124	203%
鬼怒川	0	0	—
渡良瀬川	0	0	—
中小河川			
黒川	0	0	—
大芦川	0	0	—
思川（粕尾）	0	0	—
計	3,110	6,164	198%

表 3 放流アユの釣獲尾数

河川	調査年		増減
	2016	2017	
大河川			
思川（下都賀）	803	468	58%
那珂川	15,565	1,203	8%
鬼怒川	22,436	9,420	42%
渡良瀬川	4,111	2,021	49%
中小河川			
黒川	9,989	9,328	93%
大芦川	10,351	8,555	83%
思川（粕尾）	13,464	12,042	89%
計	78,735	45,054	57%

引用文献

- 1) 高木優也・酒井忠幸．解禁日における放流アユの回収率．栃木県水産試験場研究報告 2018; 61: 40-41.

（指導環境室）